〔名誉会員挨拶〕

北海道医療大学歯学会
名誉会員をいただいて

北海道医療大学歯学部
客員教授・名誉教授
奥村一彦

令和６年３月２日㈯に第42回学術大会・定例講演会開催の際，歯学会会長　越智　守生先生から，歯学会名誉会員を受け賜り心より感謝申し上げます．

さて，私は昭和62年（1987年）に，城西歯科大学大学院（現　明海大学大学院）を修了し，同年４月から，歯学部第一口腔外科学講座（現　組織再建口腔外科学分野）の助手として採用していただきました．私はよく北海道生まれと誤解されますが，もともと出身は東京です．様々なご縁をいただき，本学にお世話になりました．当時，講座の教授は金澤　正昭先生でした．大学院では口腔病理学を専攻していたので，一般歯科臨床はアルバイトで腕をつけておりましたが，口腔外科はさっぱりダメでうだつが上がらず，当初は大学院の延長の仕事で透過型電子顕微鏡による軟骨細胞の微細構造の研究をしておりました．その時の講座の同年代の教員と共同で，夜遅くまで仕事を続け，その成果を歯学会学術大会で２期卒業の藤井　雅代先生（35期の藤井　彩貴先生のお母様）と発表したことを懐かしく思います．その後も歯学会の学術大会に参加させていただき，多分野の研究に接することができとても多くのことを勉強させていただくとともに，卒業生でご開業の先生や本学の教員に親しく接していただける機会にもなりました．

平成５年（1993年）には，講師に昇任され，一時期は大学を離れ千葉県立がんセンター頭頸部外科で研修を受け，ようやく口腔外科の臨床で一人前に近づいた気がしたように思いました．平成26年（2014年）に柴田　考典先生のもと准教授に昇任，平成29年（2017年）に組織再建口腔外科学分野教授として昇任され，現在に至ります．今年の３月を持ちまして退職となりましたので，本学とともに歯学会に37年間お世話になったこととなります．後半の４年間はコロナ禍を経験し社会も様々な場面で変化を余儀なくされてしまいました．過去の歴史を振り返れば，新たな感染症のパンデミックは，技術革新につながり，過去と現在は，構造的に様変わりしたことを身を持って経験できたことは貴重でした．

新型コロナ感染症は，昨年５月から２類から５類感染症に移行し，ようやく社会も落ち着き始めました．毎年の歯学会学術大会と歯学会雑誌がこれからも変わらず，発展し続けることを心よりお祈りするしだいです．私も名誉会員として，これからも微力ではありますが，ゆっくりとしっかりと歩行を進めて，応援させていただけると幸いです．

〔名誉会員挨拶〕

名誉会員承認にあたって

生体機能・病態学系　歯科放射線学分野
中山英二

2024年３月をもちまして定年退職いたしました．この間お世話になりました教職員の皆様，本学関係者の皆様，学生の方々に深く御礼申し上げます．なお，その後は少なくとも１年は特任教授として在籍いたします．その間も今まで通りよろしくお願いいたします．

私が歯科放射線学を志したきっかけは，学生のころ恩師の神田重信先生（現名誉教授）が「歯学の総合画像診断を目指す！」と力強く宣言されたのに感銘を受けたことに始まります．一時期は山梨医科大学（現山梨大学）医学部歯科口腔外科にも在籍し，口腔外科の基礎も学びました.「画像診断」が大好きで，臨床とその教育に没頭していましたが，研究者としてはさしたる成果も出ずに過ごしていました．しかし，たまたま初めて投稿した英語論文が受理され雑誌に掲載されました．すると，知らない国外の研究者から論文の別刷りを求められ，やっと英語論文で研究成果を公開する喜びに目覚めました．それ以降はぽちぽちと英語論文を発表できるようになりました．その後，准教授まで務め，Harvard大学関連のEye and Ear Infirmaryに文科省在外研究員として短期留学もしました．

そして2007年７月から北海道医療大学に赴任しましたが，その後すぐに歯学会に入会し今日まで続いています．この北海道医療大学歯学雑誌（以下，歯学雑誌）は非常に重要と思いました．学術雑誌は何より査読制度が適切に機能していることが重要ですが，歯学雑誌はそれがシステムとして機能しています．私どもの分野でも，数編の論文を投稿しましたが，その都度，複数の査読者から適切な査読意見をいただき，結果として最終的に受理された論文は，十分に学術的意義のあるものにすることができました．特に原著論文は，研究者個人にとっても重要な業績となり，非常に重要であると思います．各査読者には深く感謝いたします．この歯学雑誌は今後とも教授，准教授をはじめとした研究者によって今まで以上にさらに発展して重要な学術的活動をされることを祈願いたします．

最後に，北海道医療大学歯学会の名誉会員にしていただき会長の越智守生教授をはじめ会員の皆様に感謝いたしますとともに，歯学会のますますのご発展を祈念致します．

〔名誉会員挨拶〕

北海道医療大学歯学会名誉会員への推戴に寄せて

総合教育学系　歯学教育開発学分野
特任教授　古市保志

昨年度末で定年退職を迎え，昨年度の歯学会学術大会において名誉会員の称号をいただきました．会員の皆様方の一方ならぬご厚情に心からお礼申し上げます．平成16年（2004年）12月１日に本学に赴任し，直ちに歯学会のメンバーとなり，それ以来19年超の月日が流れました．学術大会への出席のみならず2016年には，学術大会を主管させていただきました．また，大学院生の学位論文を始め，幾つかの論文を歯学会雑誌に掲載させていただいております．このような歯学会との長年の係りの中で強く感じるのは，歯学会が学際横断的な学術団体であるのみならず，本学の卒業生も多く参加している世代縦断的な活動を行っている組織であるということです．以前に比べて歯科関係の各領域の専門性がより顕著化している中で学際領域と世代の枠組みを超えて行われている歯学会の活動は貴重なものであり，異なる領域からの歯学会誌への投稿論文や年次大会での異なる世代からの発表に接することができて，臨床医としてまた研究者として視野を広げさせていただきました．また，教育に関する論文や発表も行われ，学内外での教育上の問題点や改善事項についても広く知ることができました．これらは一重に開設以来歯科会の発展を願って活動してこられた多くの諸先輩方のご尽力によるものであり，深く感謝申し上げます．特に2020年からの新型コロナウィルス感染症の蔓延のために対面開催ができなかった３年間は失われた期間でしたが，その間にオンラインやハイブリッドでの開催様式を手に入れることができました．また，再び対面で開催できた昨年度の歯学会学術大会では対面開催の意義を多岐に渡り強く認識するものでした．

私事ですが，この４月からは，歯科教育学開発分野の特任教授として再び学部長を拝命しております．精一杯務めさせていただきますので，歯学会所属の先生方には本学歯学部の益々の発展のために多方面からのご協力・ご指導をよろしくお願いいたします．

末筆になりましたが，北海道医療大学歯学会の益々の発展を祈念いたします．